

## 九九の話

学校長 設楽 政夫

「小学校で学習したことで覚えていることは。」と問われると、そこに九九は必ず入ると思われます。九九は、算数のみならず小学校を代表する学習内容の一つです。本校でも、2年生が10月中旬から2学期いっぱい40時間を超える時間をかけて、今まさにその学習をしています。

だれもが知っている九九ですが、私にとってわからないことや不思議に思っていたことがたくさんあります。最大の疑問は「なぜ九九と呼ぶのか。」ということでした。

最後の一句を全体の総称として、なぜ「九九」と呼ぶのでしょうか。いろは四十八文字は最初の三文字をとって「いろは」と呼び、英語26文字はギリシャ語の最初の文字アルファ(α)とベータ(β)をとって「アルファベット」と呼びます。このように、全てを表すには、「最初の一句」で代表するのが普通だと思うのですが、どうでしょう。私にとっては、教員となってからも20年以上もの間解くことのできない「なぜ」でした。

歴史から調べると、「九九八十一」は冒頭の一句。もともとは九九から唱えるものなのです。そのなごりから「九九」と呼ばれるようになったのです。

九九の由来は、古代中国春秋時代まで遡ります。遺跡から発見される木簡には、「九九八十一」から始まっています。これが日本に伝わり、平安時代の児童用教科書といわれる「口遊(くちずさみ)」の九九表は「九九八十一」「八九七十二」「七九六十三」…、「八八六十四」「七八五十六」「六八四十八」…と続きます。今の九九と違って、乗数は変わらず被乗数が変わっていくこと、9の段は9つ、8の段は8つ、7の段は「七七四十九」からはじまる7つとなります。9×8と8×9は区別されず一つにされていたのです。

今日、本校で使用する教科書では5の段から始まり、続いて2、3、4、…9、最後に1の段を学習します。そして、乗法の性質や交換法則など忘れたときに九九を作る考え方などを学びますが、昔は、誰もが学ぶ内容ではなく、ごく限られた人が覚えるものとして九九が作られていたのかもしれませんが。

遙か昔から伝えられていた九九ですので、今でも日常語にも使われています。四六

時中(24時間)という言葉はその代表でしょう。このほか、二八そば(代金が高い間16文だったとの説)、今では滅多に使われない三五の月(15夜)もあります。さらに、万葉集では、八十一と書いて「くく」と読ませるものもあり、とても奥が深いです。

ところで、「なぜ」をもつことは、学習への動機付けやる気といったモチベーションを高めるために、とても大切なことと思います。

今年8月、合格率4.9%という難関を経て気象予報士の試験に合格した北海道北見市に住む小学校6年生本田まりあさんは、小学校4年生の時「なぜ、雲は落ちてこないのか。」と疑問に思ったことから気象予報士の勉強を始め、史上最年少という11歳11ヶ月での合格という快挙を成し遂げました。

本校でも、「なぜ」「どうして」の疑問を基に調べたり実験したりした子どもたちがたくさんいます。本年度の科学展に出品された作品の標題には「なぜ・どうしてかいこのひみつ」「音はどうして聞こえるの?」「微生物はどこからきたか?」「ハンドスピナーはなぜ回る?」などがあり、素晴らしい研究の成果をまとめて優秀賞や優良賞に輝いています。

今年も早いもので霜月から師走、本格的な冬のシーズンを迎えます。師走は、一年の終わり慌ただしい季節です。昼の長さ最も短くなります。交通安全の自今防止についても、ご協力をお願いいたします。

### <12月のおもな行事>

1日(金) 横小フェスティバル	20日(水) 給食最終日 4時間日課(14:00地区下校)
3日(日) 秩父夜祭	21日(木) 大そうじ 3時間日課(11:45地区下校)
4日(月) 小中あいさつ運動	22日(金) 終業式 3時間日課(11:30一斉下校)
5日(火) 全校朝会 ALT	
6日(水) 委員会 教育相談日	
8日(金) 児童集会	
10日(日) 横瀬町駅伝大会	
12日(火) 児童朝会 ALT	★23日(土)～1月8日(月)までは 冬季休業日となります。 始業式は9日(火)です。
13日(水) クラブ	
19日(火) 音楽朝会 4時間日課(14:00地区下校)	

### 芦ヶ久保地区スクールバスのお知らせ

	月	火	水	木	金
登校バス	全学年8時学校着				
下校バス15:00発	全学年	1年	1～3年	1～3年	1・2年
下校バス16:00発		2～6年	4～6年	4～6年	3～6年
特別運行	19日(火) 14:00 (全学年)	20日(水) 14:00 (全学年)	21日(木) 11:45 (全学年)	22日(金) 11:30 (全学年)	

